

# 人権啓発センター だより

平成28年12月

No.36



## 雑感



初秋に、ある広告代理店が作成した「ふるさと納税」の返礼に関するPR動画が、インターネット上から削除された。

返礼品のウナギを水着姿の少女に擬人化し、少女が「養って」と訴える内容だった。見た瞬間、「これは女性の人権侵害となる」と直感した。少女に食事や住環境を与え、「女性は養うもの」という女性蔑視の考え方につながるのではないかと感じた。

制作意図は、「養鰻場のウナギを大事に育成していることや、他の自治体とは違う作風、故

郷を思い出す」というものだった。しかし、動画が公開されるまで、担当部署等多くの方が検討したはずだが、誰からも異論は出なかったのか。

この動画については、国内は勿論、海外メディアからも批判を受けた。世界の人々が、「人権のものさし」で見ていることを感じた。

今回の動画を通して、私たちも日々の生活を人権尊重の視点から見つめ、考え、声を上げることの大切さを感じた。

(高知県教育委員会人権教育課 西内)

## 人権あれこれ

### 身近な人権課題 ～災害と人権から学んだこと～

南海トラフ大地震。「命を守る。」一番大切な行動です。

「ゆれから身を守る。なるべく高台に避難する。」このことは、ずいぶん認知され訓練も多に行われています。高知県では、身近な人権課題として「災害と人権」を平成26年から加えています。

「地震・津波から逃れた後のことを考える。」阪神淡路、東日本、熊本、鳥取地震と震災が起こり、救援活動、避難所生活、復興に向けた取り組みが容易なことではないことを経験しました。

「自助、共助」が大切であることも学びました。

災害が発生した地域の人々全員が被災者です。そんななか、災害弱者と言われる高齢者、障がい



者、子ども、女性、外国人等、さらにはいろいろな支援が必要な方が不自由な生活を強いられます。また、他府県から避難した方々の受け入れなど、普段から人権意識を高めること、地域力を高めておくことなど避難訓練と同様に大切なことであると感じています。被災した方々の心身のストレス、恐怖トラウマは大変なものです。被災者が犯罪に巻き込まれたり、避難先でいじめに遭ったりということをなくすためには、今が大事だと思います。

(研修講師 池本)



# じんけんライブラリー

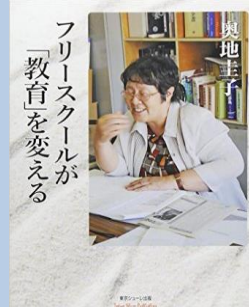
## 一押し本

### フリースクールが「教育」を変える

奥地 圭子（おくち けいこ）／著 東京シュレー出版（1,700円＋税）

不登校児童・生徒数は12万人超（平成26年度学校基本調査）。この数字を聞いて驚く人は多いのではないのでしょうか。

さて、今から約30年前にフリースクールを開設した著者。フリースクールとは、不登校の子どもが無理なく自由に通える学校です。不登校の子どもの心理なども書かれており、色んな理由があることに気づかせてくれる本です。人それぞれの生き方があるということを尊重するきっかけになるのではと思います。  
（企画啓発課 佐伯）



## ちょっといい話

4歳になる孫が夕食時に「天の神様、このご飯をありがとうございます。全部食べて元気な子になりますように…」というお祈りをするようになった。通園している幼稚園がキリスト教主義なので、いつも昼食時に行っている食前の感謝のお祈りを家に帰っても行っているのであろう。この幼稚園では園舎外で遊ぶ友だちがいる時や、病気で休む園児がいると「怪我がなく楽しく遊べますようにお守りください。」とか「〇〇さんの病気が早く治りますように」というようなお祈りを、園児がするようにしている。このような仲間のための祈りは、身近な人の幸福を思う心を育ててい

ると思う。

他の保育所や幼稚園においても、身近な人を思いやる心を育てることを目的とした教育を、様々な方法で行っている。

このような幼児期から、他の人の幸福に関心を持つ気持ちを育てていく取り組みが、子どもたちの心に、人を大切にする心を育てており、大切な取り組みであると強く感じた。



（事務局長 中山）





## 災害と人権

### 「避難所運営ワークショップ」用シート作成と貸し出しのお知らせ

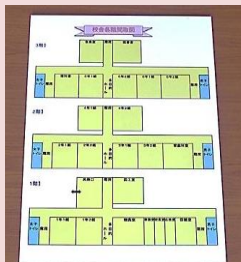
高知県は、平成 26 年に高知県人権施策基本方針を改定し、県民に身近な人権課題として「災害と人権」を新たに位置づけました。それを受け、(公財)高知県人権啓発センターでは、災害時の支援活動等に多くの経験をされている NPO 高知市民会議理事、山崎水紀夫さんのご協力を得て、「災害と人権」に関わる学習プログラム開発を行いました。

この「人権に配慮した避難所運営ワークショップ」は職場研修等で積極的に取り上げていただいております。

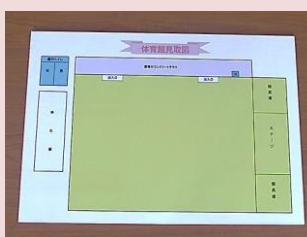
①



②



③



そこで、このワークショップで使用する「避難所運営ワークショップ」用シートを新たに作成しました。

シートは、①A1 版 2 つ折り学校敷地図、表面はホワイトボード製で、書き消し可能タイプ、磁石付カードを貼ることが可、裏面は発泡用ウレタン製、②同じ素材の A3 版校舎各階間取り図、③体育館見取り図の 3 点で 1 セットとなっており、8 セットを作成しました。

今後多くの皆様に活用していただき、災害と人権についての理解を深める一助となれば幸いです。

#### 【研修を受けた方の感想】

- 今まであんまり考えたこともなかった避難所の配置等いろいろ参考になりました。
- 「災害と人権」について、初めてじっくり考える機会になりました。
- 自分がこういった場面になっていったとしても、上手に対応していきたいと思った。
- 避難所での人への配慮、男性、女性、いろいろなことへの気配り、改めて分かりました。避難所だけでなく、日頃の生活でも役に立てていきたいです。
- ワークショップでは、児童・保護者・防災連合の役員さん等、子どもと大人が一緒になり、楽しみながらも真剣に、弱者に配慮した避難所の運営の在り方について学習ができました。保護者の方々からも「これからは、こんな勉強をせんといかんねえ」との感想も多くいただくことができました。





# Information お知らせ



## 平成 28 年度人権啓発研修 ハートフルセミナーの紹介

被害者支援講演会

「被害者の心を支える人がある」

- 講 師：飛鳥井 望さん  
(公益財団法人被害者支援都民センター理事長)

災害や事件、事故等悲惨な事態がもたらす惨事ストレスは、被害者やその支援者にも影響を及ぼします。これら惨事ストレスの予防とケアについて学びたく考えております。

- 日 時：2017年1月22日(日)  
13:30~15:30(開場:13:00)
- 会 場：高知県立人権啓発センター6F ホール
- 参加費：無料
- 定 員：100名
- お申し込み：郵送、FAX、Eメール、お電話でお願いします。

被害者支援講演会

### 被害者の心を支える人がある

災害や事件、事故等悲惨な事態がもたらす惨事ストレスは、被害者やその支援者にも影響を及ぼします。これら惨事ストレスの予防とケアについて学びたく考えております。

2017年  
1月22日(日) 13:30~15:30  
(開場13時)  
高知県立人権啓発センター 6Fホール  
参加費無料/定員100名

講師 飛鳥井 望氏

公益財団法人被害者支援都民センター理事長

1977年 東京大学文学部卒。東京理大、精神科専門医・相模原、東大病院、国立産業医研所を経て、1990年 東京都精神医学総合研究所社会精神医学研究部 研究員、専門医「心の医療」に入社し、2009年 同研究所 所長代行。  
2011年 公益財団法人東京都民権啓発センター 所長、2015年 高知県立病院 副院長、公益財団法人高知県民権啓発センター 理事長、NPO法人生活被害者支援ネットワーク 理事、東京都民権啓発センター 会長、日本トラウマティック・ストレス学会理事(現代表理事)。

著書「PTSDの臨床研究―理論と実践」(学術出版)、「心の癒しのケアと治療ガイド」(学術出版)、「PTSDとトラウマのすべてがわかる」(学術出版)など。

主催  
高知県  
高知市立人権啓発センター  
高知県立人権啓発センター

主催：(公財) 高知県人権啓発センター・高知県・こうち被害者支援センター



### じんけんライブラリー 利用案内

図書、視聴覚教材の貸し出しを無料で  
行っていますのでぜひご利用ください

- 図書  
1人5冊以内で、期間は2週間以内です。
  - ビデオ・DVD  
1人2巻以内で、期間は2週間以内です。
  - パネル  
1人3セット以内で、期間は1カ月以内です。
- ※ 直接来所できない場合は送付もいたします。  
(送料は利用者のご負担となります)



### ホール案内

各種研修会等にご利用ください

- 収容人員  
270名(机を使用する場合は180名)
- 設備  
放送設備、スクリーン、冷暖房
- その他  
使用料、利用時間等についてはHPでご確認ください。

問い合わせ先

〒780-0870 高知市本町4丁目1番37号

公益財団法人 高知県人権啓発センター

E-mail : center@kochi-jinken.or.jp

TEL 088-821-4681 FAX 088-821-4440

HP : <http://www.kochi-jinken.or.jp/>